

北九州の近代化遺産

～それぞれの地域、魅力的な建造物群～

期間 27年11月9日[月]～12月14日[月](全5回)

応募締切 11月2日[月]

実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階(39ページ地図参照)

申込問合せ先 九州国際大学地域連携センター

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階 TEL: 631-2203 FAX: 631-2204

時間 19:00～21:00

定員 30名

受講料 4,000円

講座概要

実施機関: 九州国際大学地域連携センター

四大工業地帯のひとつに数えられていた北九州市域の周辺には、近代に造られた建築・土木・機械類が今も多く遺されています。近年脚光を浴びている世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」への関心の高まりと前後して、これら「近代化遺産」に対する注目が集まっています。近代急成長を遂げた北九州周辺には、意外ともいえる身近なところに近代化遺産が多く存在し、門司港レトロ地区を筆頭に活用事例も見られるなど独自の魅力を見せています。この北九州の近代化遺産について概要と魅力を紹介します。

月 日	テーマ・内容	担当講師
11月9日 (月)	筑豊炭田と遠賀堀川～北九州と筑豊～ 北九州工業地帯成立の背景には、エネルギー供給地としての筑豊炭田の存在が欠かせません。田川・飯塚・直方の筑豊三都市を基点として多くの炭鉱城下町が栄え、堀川運河の結節点であった折尾は今姿を変えようとしています。これら河川沿線の遺産を紹介します。	九州国際大学 非常勤講師 九州大学 百年史編集室 助教 博士(工学) 市原 猛志
11月16日 (月)	若松と戸畑 筑豊炭田で産出された石炭の積出し港として大きく繁栄した若松の市街地には、今もなお石炭に関連する施設が遺り、近年活用されています。戸畑は若松と一体的に発展を遂げ、漁業や鑄物産業で栄えました。これら両地域を解説します。	
11月30日 (月)	八幡製鐵所と関連遺産群 1901年に操業した八幡製鐵所は国内の鋼鉄需要を支えながら近代日本の発展に大きく貢献しました。また製鐵所に関連する各種の企業は製鐵城下町とも言える地域内に多種多様な産業を成長させ、ついに、今年世界文化遺産へと登録されました。	
12月7日 (月)	門司と大里 1889年の特別輸出港指定と1891年の鉄道開通によって、門司の港は、日本三大港と称される栄華を誇りました。大里の地は、神戸の新興財閥である鈴木商店の工場が次々と立地し一大食品コンビナートへと変貌を遂げます。現存する施設からその足跡をたどります。	
12月14日 (月)	小倉 幕末期の戦乱によって大きく荒廃した小倉の町は、陸軍十二師団の設置や陸軍造兵廠の誘致に伴って軍都として大きく発展し工場も相次いで建てられました。商業建築から軍事遺産まで、幅広い分野の施設が遺る小倉を解説します。	